

海域の概要

本湾は、津軽海峡を挟んで本州下北半島と相対する湾で、湾東部は函館港を中心とした活気ある港町です。沿岸は、道内第3位の函館市、田園工業都市である上磯町に面しています。



Specification

諸元

湾口幅：8.4 km

面積：65 km²

湾内最大水深：5.8 m

湾口最大水深：5.8 m

閉鎖度指標：0.96

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

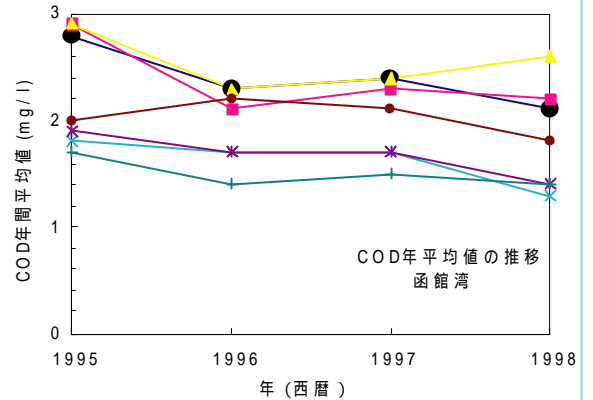
北海道函館市大鼻岬と上磯郡上磯町葛登支岬を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

全般に水質は良好ですが、函館港内など一部では水質汚濁が進んでいるところもあります。本湾の主な汚染源は、水産加工場、旅館及び生活排水ですが、公共下水道の普及により、徐々に改善しています。1998年度のCOD年75%値はC類型海域の3基準点で2.4~2.98mg/l、A類型海域の4基準点で1.6~1.98mg/lと環境基準を満たしています。

底質は、主に「細砂及び砂」で構成されていますが、函館港を中心とする東部では、砂泥、泥となっています。



自然

函館市は扇を開いたような形をしており、函館山(標高 334m)を要に市街地から山野部へ広がっています。北部は横津連山へつながり、東・西・南の三方は海に囲まれています。

海は暖流の影響を受ける津軽海峡に面しているため、南方系の生き物などもみることができます。また、湾内の底質が砂質となっているため、七重浜から葛登支岬にかけては水産上有用な二枚貝のホッキガイがよくとれます。

また、函館湾は、カモ・ガン類の飛来地でもあり、「絶滅危惧類」で、天然記念物に指定されているコクガンも飛来します。

函館山は軍の要塞として過去半世紀に渡り立ち入りが禁止されていたため、自然状態は比較的良く、600種以上の植物が生息しています。



函館湾に飛来するコクガン

文化歴史

大正時代、函館は北太平洋におけるサケ・マス漁業基地、カニ工船基地として目覚ましい発展を遂げてきました。こうした水産業の発展は、必然的に商業の発展をも促して、函館の商業圏は全国に広がり、貿易は中国をはじめ、東南アジア、欧州各国まで伸びていきました。このころ市の人口は約15万人ほどを数え、昭和10年ころまで札幌・仙台をしのぐ東京以北最大の都市でした。

産業

函館港の区域からはずれる西海域は、マコンブやホタテなどの養殖場として利用されている他、ホッキガイやカレイ類、湾口西岸の岩礁部ではウニ・アワビなどの漁場として利用されています。

様々な史跡・観光地・景勝地に恵まれ、特に函館山からの夜景は、世界三大夜景の一つともされ、年間200万人を超える観光客が訪れています。



函館山からの夜景